

あ い さ つ

稲化会副会長 高宮信夫

化学科創設は昭和48年で、昭和61年3月には第10期生が卒業しました。当初は化学科の研究室は全部51号館の11階および12階に在りましたが、昭和54年3月より、新しく建設された65号館5階に大部分の研究室が引越し、一部51号館12階に研究室があります。第1期生の卒業が52年3月ですから初期の卒業生は現在の状況を知らない人が多いかも知れません。

61年3月には長年勤続された関根吉郎教授が定年により退職され、また新しく松本和子助教授が少し前から後任として着任しておりますので、化学科の雰囲気も大分変化しております。

学生の就職状況は初期の頃はよくありませんでした。その原因の一つは日本経済全体がオイルショックの影響で不景気であり、大企業は新規採用を差控える所が多かったこと、

他の一つは化学科の知名度が低かったことであると考えています。しかし、ここ数年は全く趣きを異にしています。化学科の学生に対する求人は大変に多く、大小合わせると900社を超える有様です。日本経済の景気回復に負う所が大きいのと思いますが、さらに技術革新の時代に化学の有用性に対する評価が高まり、化学を専攻した学生に対する期待が大きくなってきていることも大きな原因でありましょう。卒業生ならびに関係者各位の御尽力により「早稲田大学に化学科あり」ということが知れ渡ってきた事も、もう一つの原因であろうと考えています。

このような時代に化学を専攻した卒業生は大変幸せであり、やり甲斐のある人生を送ることが出来るであろうと思っております。御健闘を祈ります。

教授随想

今年度より、先生方に一筆書いて戴くことにしました。

井口 馨

化学科一年生諸君へ

私は化学科一年クラスの担任です。諸君は入学以来半年を過ぎてどうやら理工キャンパスの空気にも慣れたことと思います。入学してとまどったのは、定まった自分の教室を持たぬ渡り鳥的生活と授業の難しさではないだろうか。しかし授業の難しさこそ大学の本質です。高校においては授業内容の範囲が定まっております、先生はその範囲を教え、生徒はそれを習得するだけで宜しい。しかし大学では

学問の現状を習得すると共に、将来へ向けての研究をしなければなりません。そのため学ぶべきことはあまりに多く、限られた授業時間中に詳しく教えることは到底不可能です。それで講義は急速に進んで理解し難くなる訳です。これは昔の大学でも同じで、そのため学生は参考書を一生懸命読んだり、仲間ドイツ、フランスの原書(当時は日本語で書かれた良い本が稀であった)を輪読したものです。それでも講義には追付けなかった。近頃の豊かな時代に甘やかされて育った学生は、先生は分るまで教えてくれるべきものと思ひ込んで待ちの姿勢でいるようだが、これでは落ちこぼれるしかない。大学は、そして実社会はなおのことそんなに甘いものではない。自ら進んで難問にぶつかり、一步一步解決して行く積極的な行動がなくては君達の将来は

開けない。さて、このように勉強するのは何のためだろうか。一流会社に就職するため、立身出世のためというのも一面ではあるが、現代の風潮のように自分一箇のことだけ考えていて果して良いものであろうか。早稲田大学は日本の超一流大学であり、諸君は将来の日本を背負って立つ指導的階層の一員になる訳です。世間の人々がそう見ている以上、その期待に応え、自分一箇の利益のためでなく、国家社会のため役に立つことを考えて人生を生きて貰いたいものです。頑張ってください。

新田 信

今年3月に化学科は創立以来ちょうど十期の卒業生を送り出したところであり、現在十四年目を迎えております。また、本年は長年に渡って研究、教育および早大のスポーツの発展に尽くされました関根吉郎先生が停年退職されました。小野講堂での最終講義において学内および各方面の多数の参加者を拝見し先生の長年にわたる御活躍の大きさが改めて

感じられました。

本年の就職担当ということで会社の人事の方々と接する機会も多くありました。(来春卒業、修了の諸君の就職はほぼ希望通り全員決まりました。)そこで人事の方の意見を総合しますと、独創性・バイタリティーに富んだ人材を望む意見が多かったようです。また中には「早稲田の学生なら五人でも六人でも…」といったような多少乱暴とも思える話もありました。実際、早稲田大学化学科に対する求人だけで数百社にのぼり、これも卒業した先輩の活躍に負うところ大であると考えております。と同時に、企業が独創性・バイタリティーある人を求めているうらには、現在の学生に独創性・バイタリティーに欠けるところありとの考えがあるように思われます。さらに言うならば、その独創性・バイタリティーが早稲田に求められていると考えてもよいのではないのでしょうか。学生諸君にはよりいっそうの努力を期待すると共に、卒業生の方々の御活躍と御協力をお願いいたします。

研究室紹介

◇ 井口 研

わが井口研では、分子軌道法および物性理論の研究を行なっているが、賢明でない読者諸君にその詳細を述べることはほとんど意味がないと思われるので省略する。

では、メンバー紹介。

まず、この人抜きには井口研を語ることは至難の技と言われる鉄人28号の再来K・K氏。今年は何故か例年にも増して後輩の指導・育成に余念がないため、四年生は完全にグロッキー状態にある。

長崎県は南高来郡というかなりの人口希薄地域出身にも拘らず、今では大都会東京での生活にすっかり慣れ、六本木近辺に出没しては、ナウイギャルに「ヘイ！彼女！いっしょに芋掘らない？耕運機に乗ってみない？」などと声をかけているという都会派青年K・H氏。

一見ぼんやりしているようだが、実はコンピュータのプロフェッショナル。その腕を生

かしたバイトで荒稼ぎし、今では銀行のマル優枠も軽く突破し、近く金融業を始めるといふ噂もある未来の悪徳実業家A・M氏。

高校時代にアメリカ留学の経験ありと言えば聞こえはいいが、実はほとんど人家のないモンタナ州の山奥で、毎日スカクを補獲することに情熱を燃やしていたという、花も恥じらう井口研の紅一点A・U嬢。

量子化学、分子軌道法の神様であるだけでなく、文学、絵画にも常人をはるかに凌ぐ知識を持った井口研の黒幕K・S氏(講師をしている看護婦学校にファンクラブができたって本当?)。

以上のメンバーに井口先生およびA・K氏、筆者を加えた計8人の研究室というわけだ。量子化学に青春を賭けてみようという勇気ある若者の来訪をお待ちしている。(麻衣恵流)なお、筆者はその軽妙な毒舌をもって井口研のタケンと呼ばれている。(老兵不死)

◇ 伊藤(紘) 研

今春、修士二人を産業界へ送り出し、新たに卒論生五名を迎え、研究室構成メンバーは、教授以下、D3兼助手：1名、M2：3名、

M1 : 2名、B4 : 5名となり、再び総計12名の大所帯になりました。三月には、大部屋の一角を占めていた暗室を遂に取り壊すと同時に、大々的な模様替えを行い研究環境整備に努めたものの、相変わらず種々の装置や機材が部屋中溢れんばかりの状態が続いています。今後予想される装置の導入に際しては、先ずスペースの確保が問題となりそうです。また過密化にともなって、数年前より汎用性の高いラマン分光器 (JEOL 400D) を昼夜2交代制で使用しており、週2度夜勤のT君の顔を午前中に見ると気の毒に思えてなりません。

さて、従来より本研究室では、種々の合成ポルフィリン類や含硫黄環状化合物の電気化学的及び化学的状态変化に伴う分子構造の変化を、主として共鳴ラマン分光法により、また金属電極、金属コロイド及び蒸着金属等の表面、更にはアルゴンマトリックス単離金属クラスターに吸着したポルフィリン類、オレフィン類、補酵素NAD、核酸構成要素、ピピリジン類等の分子の吸着構造をSERS (Surface enhanced Raman Scattering) 分光法により解析しています。一方2月にはPC-9801VM2を導入し、英文、和文ワードプロセッシング以外にリレーショナルデータベースや分子構造表示プログラムなどを走らせています。また、デジタル専用回線との接続により大型計算機の端末として、基準振動及び構造最適化などの計算に利用することが可能になりつつあります。

(M. K.)

◇ 伊藤 (礼) 研

私が“量子化学が行なうこと”について真剣に考え始めてから早3日という月日が流れました。それは一言で言ってしまうと、量子力学的理論により、化学物質の知見を得ようとする事です。具体的には、i)理論の把握 ii)それに基づくプログラミング、iii)実際に計算といった過程を踏みます。卒論生は主にi)を夏休み前までに勉強し、ii) iii)に夏休み以降取り組むわけですが、特にii) iii)に費やされる時間が最も長く、夜遅くなることは日常で、帰りが怖いです。実験系の実験に相当するのがこれですが、火傷したり臭いことはあ

りません。(目が疲れたり、胃が痛くなった、り、流産することも稀にあります。)

研究室で目に付く物は、本、机、端末機、日常雑貨と新宿の高層ビルぐらいのもので、化学薬品はエタノールぐらいしかありません。

さて、ここで研究室の人々に目を向けてみます。品川ナンバーの白いベンツを乗りこなし、気が若く、奥さんとのおしどりぶりには定評のある伊藤先生の下、普段は物静かだが、週に一度はるんるんしていると言われているM氏、昨年突然婚約したかと思うとあっという間に結婚してしまい、「家庭持ちは××」と口走るようになったこと以外は婚前と変化は見られないTS氏、婚約していないうちから「今年中に家を出る」だの「私は来年ですから」などと、誰も訊いていないのに大騒ぎしているKS氏、もうとうの昔にビットと結婚していて、完璧に落ち着き払ってしまい、最近では2号を囲い、お金のほとんどをそれに注ぎ込んでしまっているK氏、加えて卒論生に体育局サッカー部副部長という珍しいT、新学期早々怪我をしたラグビー部N、新学期早々笑える風邪にかかったスキーGAL Y嬢等、個性豊かな面々の中、益々空気のような存在となって行く筆者、明るい社会人Y氏などOB軍団を交えて日夜研究活動をしているわけだぞっと。

(51号館12階11号室にいます)

◇ 高橋 研

第I部 General Information

今春、修士2名学部生1名を社会へと送り出した当研究室は、卒研生5人を迎え新たなスタートを切ってはいるものの、2年振りに男だけの研究室となってしまったせいとその下品さは日に日に増すばかりで留まるどころを知りません。とはいえ今年の卒研生は(今のところ)非常に研究熱心で5人の修士達は煽られるばかりです。(将来が楽しみです)

現在の研究室の目標は、インディゴ系染料、ビリルビン、芳香族ジアミン等に加えて昔ながらのジチゾン金属錯体、フォルマザン、スピロピラン化合物などの光励起種について新たな知見を得ることであり、そのための手段として、従来の時間分解共鳴ラマンスペクトル測定装置の波数分解能及び時間分解能の向

上、時間分解共鳴CARSスペクトル、可視光励起一可視光プローブによる時間分解共鳴ラマンスペクトル測定装置等の開発も進めております。(是非OBの方々の御助言をお願いいたします)

第Ⅱ部 高橋研 at all seasons

春は合成。やうやうなれててをぬくことしり、どらふとしめわすれて、ぴりちんのほそくたなびきたる。

夏は実験。昼はさらなり。よるもなほ、れいざあが多く飛びちがひたる。また、ただひとりふたりなどでつやするもをかし。さむぶるなどこぼすもをかし。

秋は学会。締切のいとちかうなりたるに、でえたたらずとて、みつよつ、ふたつみつなどちあをととりなおすえあはれなり。まいてばんどのかさなりたるが、いとわかれてみゆるはいとおかし。明日にせまりて、ばんどはやすなど、はたいうべきにあらず。

冬は発表。4年生はいふべきにあらず、修士もなほでえたのいと寒きに、れえざあなどいそぎおこして、実験するもておくれなり。二月になりて、きかいのこわれければ、てきとうにごまかしてわろし。(文責 Hiro. I)

◇ 高宮 研

ジリリリリーン…… ガチャリ。

「はい、もしもし、ジミークラブ(高宮研のこと)です。はい? 店のシステムについてですか? 承知致しました。まずですね、営業時間は、朝10時から夜7時頃までとなっております。深夜営業ですか? まずありません。ええ、日曜祭日もやっておりません。会費は入会金なしの月500円となっております。ではこちらのメンバーの紹介に移りますが、総勢8名で頑張っています。俊ちゃんが一番長時間働くおとなしい真面目なコです。修業時代(学部)ではトップの成績を修めています。ポリ金属フタロシアニンを秘薬(触媒)にしております。淳ちゃんは夜は英語の専門学校に通うまだ入店して日の浅いコです。以前はクラブリケン(理研)のNo.1でした。フタロシアニンの串刺し(シロキサン鎖)が武器です。信ちゃんはこちら(大学院)の採用試験でトップの成績を修めたとても優秀な笑顔の可愛いコです。ベックマン転位の新プレイに熟

中しております。(以上M2) また、最近ライバルのセキネクラブから幸ちゃん(工博)を引き抜きました。知識、経験は豊富、ワザもバツグンです。いつまでも若々しい感性のとても楽しいコです。ピオロゲンをシロキサンの取り付ける高等ワザを開発しております。さて、今年の新人さん(B4)は、今修業の真っ最中です。拓ちゃんはとてもオクテのウブなコです。淳ちゃんの下でセッセと働いています。英ちゃんは最近ちょっと太目を気にしてシェイプアップに励んでいます。信ちゃんがとても優しいので殆ど仕事なくて困っています。修ちゃんは新人なのにワザがすごく、持久力は永久です。俊ちゃんの下で頑張っていて当店とは3年契約です。知ちゃんはベテランの幸ちゃんの下で高等テクニクの学習に日夜励んでおります。初心者(3年生以下)も歓迎致しますので、是非一度お立ち寄り下さい。」 ガチャリ。

(ジミークラブ一同より)

◇ 多田 研

今年が多田研はM2・2名、M1・1名、B4・3名、計6名で、温和な多田愈教授のもと日夜研究に勤しんでおります。少々の失敗も表に出さずネバリ強く実験なさっているT氏。T氏の実験にかける情熱は感服の限りです。一見クールで理知的なN氏は実はあっけらかんとした親しみやすい先輩です。しかし実験中とお酒の席では急に真面目になります。普段無口でモクモクと実験なさっているM₁氏は後輩思いの先輩で色々お世話になっております。しかし時々奇声を発し踊り出します。その時は荻野目洋子のテープをかけてあげると静まります。最近教育実習を終えたM₂氏は、温厚な人柄が女子中学生の心を捕えた様で、その話になると始終顔が緩みっ放しです。毎日元気なY嬢は存在感のある人で、彼女が居るか居ないかは隣の高宮研の人でもわかります。G氏はみんなのマスコットです。

次に研究内容を紹介致します。補酵素B₁₂の簡略化体であるコバロキシムなど酵素反応場モデルの合成及び機能解明が中心で、ピラジン誘導体からの含窒素複素環化合物の合成と反応性の検討、またシクロデキストリンの反応活性化作用の研究がこの範疇に入ります。

一方、反応中間体と考えられるラジカルについても興味を持たれ、ラジカルの転位を用いた中員環の合成途中に現れるN-ラジカルやS-ラジカルの挙動考察、加えてラジカル環化反応による天然物類似体への合成などが行われております。

又、研究室単位の行事も盛んで有機系研究室（新田研、応化の佐藤、清水研）合同で、3月は新歓コンパ、6月はハイキング、7月はソフトボール大会を行いました。7月末には伊豆へゼミ旅行を行います。当研究室では、先生を囲んで昼食を取りますが、先生独特のお話振りから生まれるアットホームな雰囲気そのまま研究室の気質に通じている様に思われます。このように親しみ易い研究室なので、気楽に遊びにいらして下さい。

◇ 新田研

ある新田研の一日

朝、私は目を覚ました。白い天井、ここは何処だ。そうだ、学校だ。私は先生の部屋のソファで寝袋にくるまっている自分を確認した。それから私の新田研の一日が始まった。もう少し寝ていたかったが、ふと寝すごして先生にでも起こされたら、鬼のように(呻)まずい。(注：「鬼のように」とは特に我が研究室で用いられる修飾語で、とても・ひどく・などの意味)さて私は起き支度をし、先生の部屋を出て研究室に入った。嗚呼、まぶしい。……さて、新田研のメンバーを紹介しよう。D1の宮野氏。おにゃん子が大好きである。その曲がかかると憎むあまりについハモってしまう、そんな若人である。M2の菊池氏。彼はでかい。彼が座るとそこはもう通行止めとなる。また原君(後述)の口癖を真似るのを趣味とする。M2の鹿又氏。替え歌を得意とする。新田研の歌などレパートリーは広い。最近新曲を発表していないが、早く次なるバージョンを聴きたいものだ。M2の飯野氏。彼は私だ。奥の穴熊席に陣取っている。時々箸にも棒にもかからないくだらない事を言うが、聞き流してもらいたい。B4の西村氏。彼もおにゃん子症候群で「会員番号の歌が頭から離れない」と笑いながら嘆いている大酒飲みである。B4の原氏。名が英次郎なので「ハーイ、エイタローです」とも言われ

る。「いいのしゃーん」などの口癖をもち、それをネタに現在菊池氏から、からかわれている。新田先生。学生思いの先生で、朝から晩まで大抵研究室で学生と実験などの話をしている。何かわからないことがあるといっしょに考えてくれる、そんな我らのボスである……。

「さて、誰が一番に登校してくるかな」と思いながら私は自分の机で再び眠りについた。

研究内容：当研究室では、複素環化合物や高歪み化合物など有機化合物の合成や、その物性・反応性などについて研究を行なっています。詳細については新田研までどうぞ。

◇ 松本研

「早稲田の学生というのは、こんなヘンテコリンな人たちばかりなのかと、驚ろいています。」

とは、昨年度はじめて卒業研究の学生を持った松本先生が、卒業の謝恩会の席上、スピーチされたお言葉でした。

そのとき、マスコミ志望の新人類青年と、スキンヘッドのヨッパライは、机のかげに隠れたのであった。

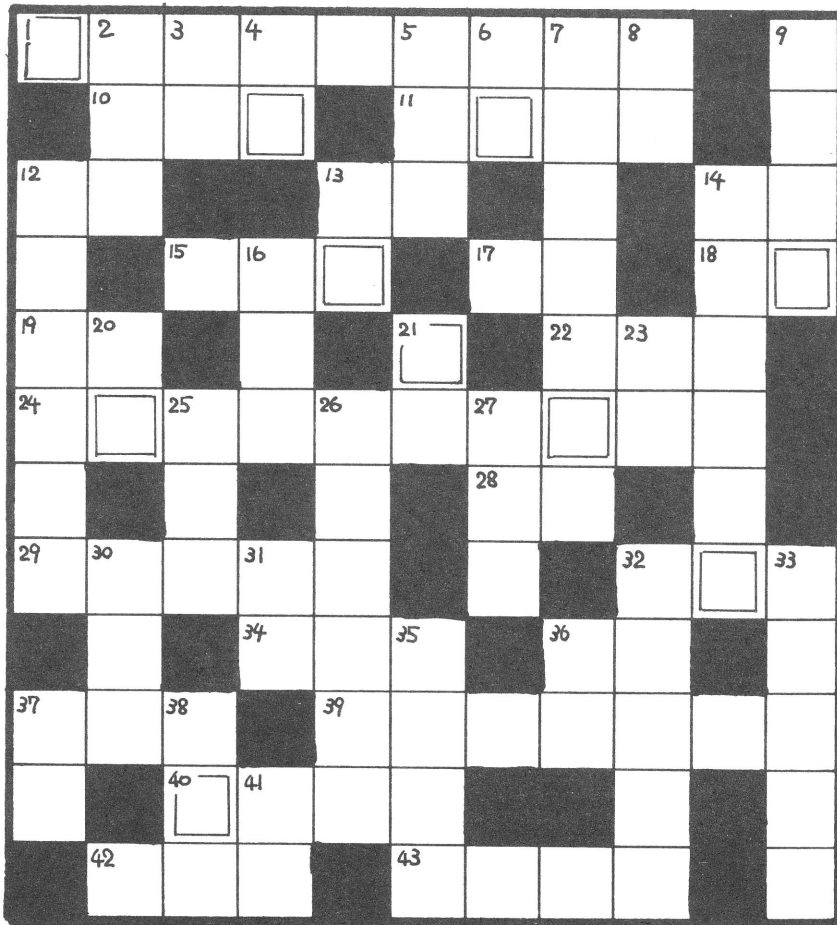
昨年の先生とヘンテコリンふたりの小所帯から、今年は部屋を移り、内装も一新して、才気煥発な学部4年生5名を迎え、東京大学大学院から、イギリス出身のジャネットさんも加わり、ヘンテコリンひとりに残っているものの、松本研の体裁もとのってきました。

現在、当研究室では、白金ブルー類の合成と触媒作用、及び、生体中の微量元素の化学形態の研究を中心に、研究活動をすすめています。

ものの真理を探究する道はけわしいのです。しかし、真理はそこここにあります。自然を牛耳って、人間の視野の中につめこむのではなく、自然の混沌としてしかも秩序ある世界の中に入る。目の前に現われ、過ぎ去ってゆくものを、ふりかえりながめるのではなく、現われ、はき出されてくるその入口に、正面から近づいてゆく。日々、敬虔でしかも自由な姿勢を持って、一同はげんでおります。

今後ともよろしく御指導下さい。

CROSS WORD



解き方

マス目に入る文字はアルファベットです。二重マスの文字を並べると、ある有名な物理学者の名前になります。さて、誰でしょう。

■タテのカギ

- ② 英国人がよく飲む飲みもの。
- ③ トルストイがこれで毒殺されたとされる。
- ④ 赤外分光法。
- ⑤ 強力な還元剤です。
- ⑥ エチレンジアミン。
- ⑦ シクロペンタノヒドロフェナントレン環をもつ化合物の総称。

⑧ ガラスの主成分。

⑨ 運命。

⑩ 2人乗り自転車。

⑪ カルボニルへの付加で、絶対配置がRになるような方向を〇〇面という。

⑫ あるドイツの文豪を逆から読むと。

⑬ 大規模集積回路。

⑭ that is

⑮ 胃ガンかな？と思ったら飲まされます。

⑯ 紫外の意。

⑰ 断片。

⑱ 赤銅鈴之助の必殺技。〇〇切り。

⑲ テトラヒドロフラン。

- ③⑩ 全日本空輸の略。
- ③⑪ イオニウムの元素記号。
- ③⑫ 合併する。
- ③⑬ ④と同様、振動を知るうえで重要な分光法。
- ③⑭ ソ連には、このカーテンがあるといわれる。
- ③⑮ 王と長嶋。
- ③⑯ オフィス・オートメーション。
- ③⑰ 温湿指数。不快指数ともいう。
- ③⑱ シス付加触媒、四酸化……。

■ヨコのカギ

- ① Cr 18%, Ni 8% 含む合金といえは。
- ⑩ 電子スピニング共鳴。
- ⑪ syn の反対。
- ⑫ 化基礎にいる、こわい兄ちゃん。
- ⑬ 普通の人は(+)だが、たまに(-)もいる。
- ⑭ スピルバーグ監督の有名な作品。

- ⑮ カナダドライ、Ginger ○○○。
- ⑰ あるいは。
- ⑱ ヒンデンブルグ号の火災はこれで防げた。
- ⑲ 穴なし 50 円玉にはこれが含まれていた。
- ⑳ 外。
- ㉑ 誘導体。あるいは微分。
- ㉒ 3.5 インチのディスケットは 2○○。
- ㉓ 奇術。
- ㉔ 超特級の意味。
- ㉕ 英語で yes、独語で ja、仏語では。
- ㉖ タテと同じになってしまった……。
- ㉗ 麦の一種。○○○ミールとしてよく食べる。
- ㉘ 原子力発電所で使われる元素。
- ㉙ LUMO の反対。
- ㉚ 2 という意味の接頭語。
- ㉛ 節。

特別企画

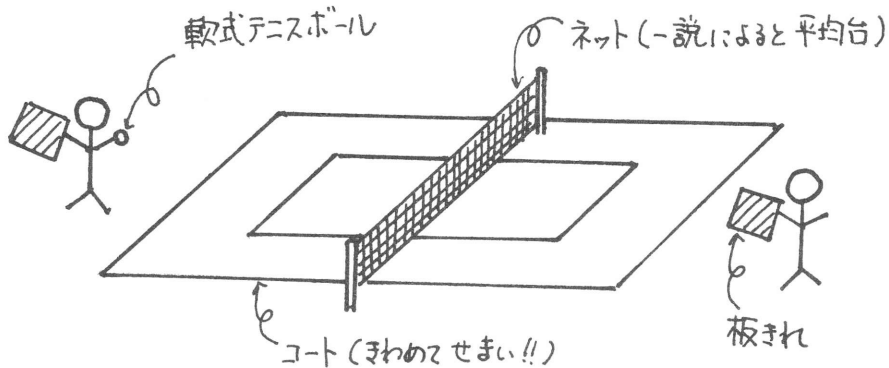
知られざるスポーツ パンポン

10 ページの卒業生短信にパンポンとありますが、その実体をここに御披露したいと思えます。この言葉が初めて我が編集部目に触れた時は、その正体を巡ってあまたの憶測を呼びました。しかしながら得られた結論は結局のところ「よく解らん…」という至極当然なものでした。と言うわけで短信にお寄せ戴

いた添田厚子さんに問い合わせたところ、次のようなお答えを送って下さいました……。

- テニスと卓球をミックスした安上りなスポーツデス。
- 日立でしかやっていないので日立で一番の人は世界一うまい。

この文章に合わせて下のような図解まで戴きました。別の筋からの情報によりますと、期待に反してなかなか情けない競技でありながら日立では社内対抗戦まで行なわれているとの事です。これもいわゆる一つの日立の hint 商品なのでしょうか……



学部生の声

● 1年生

「早稲田に来たんだなー」

威圧感をもってそびえたっている51号館を見上げた時、そう感じました。

新しい環境の中、多くの人と出会い、サークルにも燃えて一とはいうものの、講義においては高校とのギャップの大きさに悩み、実験では失敗をくり返し、さらに再提出をくらって…

いろいろな体験をしてはや3ヶ月が過ぎようとしています。化学科の魅力というもの一つに、私はその人数の少なさがあげられると思っていました。大学では高校と違い、クラスというものは無味乾燥なものになりがちで人とのつながりはサークルだけになるのではと懸念していたからです。

化学科における縦、横のつながりのその魅力それを最初に実感として捉えさせてくれたのが、オリエンテーションでした。一日目は、雨にたたられたものの、夕食後のコンパでは先生はじめ全く知らなかったいろいろな先輩方もうちとけて話をする事ができ、一年生同志でも、かなり知りあいができました。これから先、もっと速くもっと難しくなるだろう講義等についていけるかーそういう不安が大きかったのですが、やっていける！この二日でそういう気持ちにもなれました。

はや三ヶ月、でも、まだ三ヶ月です。先生方先輩の皆さん、よろしくお願いします!!

H.I

夕食後の懇親会は自己紹介で始まった。吊し上げに似た雰囲気先輩方に取り囲まれるがそこは理工主催のオリエンテーション、無茶なことをさせたりはしない。我ら一年に続く先輩方のお話して研究室のほんの一端を、教授方のお話してその個性の一端を垣間見ることができた。以後の状況は成り行きの要素が非常に強い。あちこちに花輪が咲き、一年は様々な人と接触できる。サークルの先輩とぶつかりいじめられていた一年もいたが、私の場合TAの方に早稲田や化学科のことを

伺っていた。なんといってもセミナーハウスは広い。懇親会がお開きになると、どこに誰がいるのかわからなくなる。人々は二次会や卓球やトランプへと散っていった。私は先生方ともっと話をしたかったのが見失ってしまった……。

翌朝は霧が立ち込め、セミナーハウスの広大さは神秘的にすら感じた。そんな中でボーッとしながら皆と朝食をとる時、すでに私は化学科の連帯感を感じてしまった。いつも笑顔で授業をなさる新田先生が真剣な顔ではしを動かしている光景を見た時、私はこれがオリエンテーションの目的なのだと考えた。

霧が晴れた。昨日は雨中でソフトボールをしたが、今日は快晴のもとでテニスをする。昨日も思ったのだが、先輩や教授方は割合にスポーツをやり慣れているようだ。しかし、さすがに御高齢の教授は見学にまわっていた。正午過ぎ昼食の終わったところでオリエンテーションも終わった。

今回のオリエンテーションはどちらかという化学科展望的要素よりも懇親的要素の方が強と感じた。しかしもちろん教授方一人一人が化学科について話をなさる場も設けられているし、どうも教授方は個人的なアタックを期待していたように思われる。欠席者が割合いたのにはかなり失望なさっていた。

<以上>

● 2年生

今年もまた早慶戦の季節が近づいてきました。去年は私にとって初めての早慶戦、そして嬉しいことに、早稲田が快勝したのです。こぶしを振り上げて“都の西北、早稲田の柱に…”と何度も歌い、それに酔いしれました。今まで何度この歌を歌ったことでしょうか。高校の体育祭の時もこの替え歌でした。それを我が歌として思いっきり歌ったのです。私は早稲田生だどつくづく感じたひとときでした。この一年間、大隈講堂とは言わないけれど、あの51号館と共に大学生活を送ってきたのです。コンパやサークル活動、早稲田祭など次から次へと押し寄せるイベントの波に逆らうこともなく、ある時はもみくちゃんにされながら…。本当にあつという間に一年が過ぎてしまいました。大学生活こんなことでもいいのだ

ろうかと一瞬の立ち止まる間もなかったけれど、レポートだ試験だと言って、図書館に通い、調べた本に知りたい事が載っていた時の喜びや、夜遅くまでかかって書きあげたレポートを見返す時の喜びはやはり大きなものがありました。これも又、私の学生としての間違いのない姿でした。レポートや試験にしても、早慶戦にしても私が大学生だからできることだと、その当り前の事を今考えています。かけがえのない青春のひとつを私は大学生であるという事と二人三脚をしている。働くという事もまだ目の前にない、あり余る程の自由な時間を持っているのです。その時間をなんとなく使ってしまうにはもったいない。何かに、それは勉強でもサークルでもいい、夢中になれたら素晴らしいと思います。

おそらく去年一年間より、この先もっともっと時間は早く過ぎてしまうでしょう。大学とは…、早稲田とは…、そして私の専門の化学もまだまだはっきり見えないけれど、「私はここで、これをやったのだ」そんなものを見つけないかと思っています。確かな手ごたえをつかめたらと思っています。

● 3 年生

ある日K氏が私のところに来て「これを書いてくれないか」といった。私が「これ何?」と聞くと稲化会報の原稿だった。考えてみると稲化会報の原稿は主流派の28クラス(彼らはドイツ語)の人達が書いていたような気がする。私は15クラス(フランス語)で1年生の時は彼らとほとんど交流がなく2年になり授業がいっしょになって初めてつき合いが始まった。そんなわけで、少数派民族であるわれわれにも原稿を書かせようということになぜか私がそれをひき受けることになってしまったのである。

しかし、何を書くかとても困った。野球大会はみなさん知っているように雨で中止になってしまったし、私はあと300文字をどうやって埋めるか考えた末、授業風景でも書くことにした。題材は5月のすごく天気よかった日の授業風景である。

教室に入ると見られたやつらがいる
化学科の小じんまりした雰囲気が好きだ
中ほどの席に着きぼーとしている

後の方では何人か話している
私の後で誰かが眠っている
先生が授業を始める
真剣に聞く人、まだ眠っている人もいる
空は青空、天気は最高
今日も化学科3年は平和である
私も眠くなってきた
それでは失礼してZZZZ……
〈注〉私はこのとき眠らなかった。カマ〉

● 4 年生

我々4年生は、今年3月に研究室への配属が決まって以来5か月、そろそろ研究室の雰囲気にも慣れ皆卒業研究に励んでいます。我が4年は総勢30名で各研究室、平均3~4人の配属となりました。しかし研究室は異なっても、入学当初からのat homeな雰囲気は相変わらず、実験の合い間には廊下で輪をつくっての雑談論議が始まります。

4年といえば、就職の年ですが今年には就職希望者が12名、進学希望者が18名と大学院への進学者が多少多くなりました。就職では例年になく協定が遵守される傾向にあって、就職を希望する4年生は卒研と就職活動の両立に四苦八苦しているようです。以下はそうした中で早々と内定を得たE.N.のコメントです。

これから会社を選ぶ人へ

①自分の価値基準を持っている人の場合
そもそもこのようなことに正解がある筈もない。全ての良し悪しは結果論である。しかも一人一人の価値基準が異なる以上、結果の判断も人によって違ってくる。結局、どこを選ぶとあなたの勝手です。

②自分の価値判断を持ってない人の場合
まずリクルートブックを読破しましょう。次に人から情報を聞いてまわり、知識が頭からこぼれそうになる頃には借り物の価値基準がしっかり出来上がります。あとは優良企業の人事に電話をするだけです。

これで夏休み明けには、きっと皆が希望の会社に内定していることでしょう。

ところで4年生の研究室での実験ですがH.Tはこの様子を次のように語っています。『突然ではあるが、研究室に入ると非常にツカレル。というのも進学か、はたまた就職か、また就職ならばどこの会社に入るかという人生

の節目で何かと精神面での苦痛をしいられる上に実験という超肉体労働が待ち受けているからだ。1～3年で「実験」と名のつくものは一応やっちはいるが、こんなのは楽なものである。1～2時間の実験でツカレタ～などと言っている君、まる1日いやそれ以上の時間のかかる(含徹夜)実験を想像できるかい。……などと言っていると地獄の様であるが、そこはそれ人間の「適応力」という便利な能

力を最高に発揮することで1～2か月でなれてしまう。エッこれじゃナグサメになってない?これは失礼。』「好調な時には徹夜をしても研究を続けられる体力と、不調な時にそれを乗り越えられる精神力」これこそ研究室で最も必要なものだ実感します。3年生の諸君、気軽に研究室の雰囲気を楽しむに来て下さい。

文責：なるを

卒業生短信

伊藤晋悟：昨年8月に転勤となり住所も変更となりました。菊池満：引越しました。小林秀樹：家を建てました。今年の高分子学会で発表しました。瀧野昌：現住所の所に8年在住して居ります。夏期休暇の時に1～2ヶ月帰国いたしますが、未だ当分ベルリン自由大学に勤務し乍ら勉学の予定の様子です。李成元：アモルファス物質の研究が仕事です。笠原一郎：俺だって結婚したんだぞ。でも懐しい名前があって楽しい。小泉健：3月15日に現住所に引越しました。鈴木篤：3月27日に名古屋へ転勤しました。関成孝：現在、留学中で来年5月帰国の予定です。土倉明：昨年(60年7月より)西ドイツ・ハンブルグに4年間の滞在で行っております。北海道より寒いそうです。(留守宅より)中山匡：4月より殺伐とした公立中学校を離れ花の女子校暮らしです。ドキドキしています。早稲田に入る生徒が少ないのが残念、がんばらせます。松尾徹：入社して6年目に入ります。最近になってようやく、学校でやっていたことが直接仕事に役立つようになってきました。森田英裕：子供が生まれて7ヶ月、名前は悠、男の子です。私は完全に親バカです。神田東作：できが悪く、ドクター1年のばしました。坪川雅也：入社4年目にして早くも転勤、といっても住所は変わらず仕事場所も1kmほど海の方へ移っただけ。現在は特殊なポリマーの開発研究中。5年後、いや早くも10年後(ひょっとしたら会社やめるころ?)に市場に出回る予定。澤田信吾：61年3月5日付をも

って株式会社クラレを退社しました。4月より鳥取県の教員になる予定です。関口明男：61年4月6日に結婚致しました。山岡康子：家事と仕事におわれる毎日で東京に帰る“ヒマとお金”がまったくありません。たまには学生気分にもどりたいなあ、と思います。添田厚子：会社にはいっておぼえたこと、パンボン、卓球、バレーボール。最近はや下のかわいい(!?)後輩がはいってきてかわいかったです。百瀬浩：大阪で大洋ファンを続けるのはつらい。植竹隆：61年12月、パパになる予定です。片桐進：上手く行き過ぎることもなく順調な生活をしています。重野信一：4月に熊本から沖縄へ転勤しました。都筑正則：仕事の内容は学生時代と非常に似たもので、相変わらず“通常の常圧固定床式流通装置”なるものをいじっています。中條敏資：仕事は電機会社にあって全く電機と無関係なインキの開発を行っています。渡辺昭彦：名古屋にきてはや一年、住めば都とはよくいったものです。小林匡：社会人一年生は辛いことばかり。斉藤武司：早いもので社会人になって1年になりますが、まだまだ学ばなければならぬことが沢山あります。中村卓：増えるばかりの仕事と毎日悪戦苦闘しながら、ひたすら質・量ともに世界一のLSI作りをめざして励んでいます。悲しいことに睡眠で大事な休日をつぶしています。横田昌明：医師としての生活がスタートしました。連日連夜の激務につかれた目をこすりながら読書に寸暇を費すこの頃です。

めぐり来る季節も知らぬ

醫師國試の

机に咲きし菜の花一輪

自由投稿

昨年この企画が好評であったため、今年も自由投稿の欄を設けました。

いつか見た碧空

重い扉に鍵を掛け、一日を終る時静寂が広がる。十月の夜空は訪れるのが早く、青紫の闇に人は時を置き忘れる。一人で研究室を最後に閉ざす時ほど淋し気なものも少ない。澄み渡る夜空にはオリオン座（これならすぐわかるでしょ？）が望まれ、吹き渡る風はもう冬を連れている。静まった夜道を歩いていく時、人は誰しも多くを考えるだろう。静けさは崇高や畏怖の念を人に与えるのだから……

よく晴れた冬の日の朝、白い水面は空と分かち難く凪いだ姿を見せてくれる。国境の駅で古臭い夜汽車から小綺麗な内装の車両に乗り換え、左に大西洋を望みつつ列車は Paris へと急ぐ。人の姿も見られぬ静かに落ち着き払った海に神々しいばかりの陽の光が射す様に、身体中に纏わりついた苦渋が一つ一つ外れていく気がした。何故無理して自分を殺して生きているのか。望みが成就しない事を他人や社会の責任に押しつけ、自分に問わないのか。あまたの人が言い尽した様に、人の命

は短かく、自分の意のままになる時はさらに限られている。人生の転機の度に、人はその価値観を変えるのならば、この時がまさにターニングポイントであったのだろう。三十までは自分に素直に生きよう。人に媚びる事をやめ、もっと自分に正直に生きよう。もっと我儘に生きよう……

やがて列車は海を離れて、肥沃な大地に入っていく。感傷的な気分を軽食を売る派手な上着を着込んだ男の声高な仏語が乱していく。そう言えば何も食物を持っていない。サンドイッチとコーヒーを頼むと、17 francs もした。何と高い！一気に現実に引き戻される。誰一人知る者のない旅の身は気楽で良いが少し物淋しくもある。誰にも縛られない自由と誰をも縛らずにすむ安らぎ。この時の心の静けさが、あの大西洋の上に広々と晴れ渡る眩いばかりの蒼空に重なって、日本の宵闇の中に甦ってくる。できる事なら、あの同じ空の下でこの想いを確かめてみたい。

一秒あれば人は歓喜の翼と肩を組める

Questa vita non fa per noi
perche continuarla
Andiamocene via lontano
perche restare qui?

—— per la mia cara M. T. ——

編集後記

会報と名簿を発行するぞ、そして年内に発送するぞ、という意気込みで仕事を始めたのが4月でありました。あれから半年余、ようやく印刷屋に依頼する一歩手前までこぎつけホッとひと息ついているところであります。この文章を御覧になっている中には、4月から半年後だから……と指折り数えている方もいらっしゃると思いますので、今日の日付を社会情勢に乗せてお伝え致します。

自民党が衆議員の議席数 300 とか何とかで新聞が賑わっている際に豊田通商の株を売って 40 万円ほど荒稼ぎした私は、昨日のニュースで NTT 株が 119 万 7000 円ということを知り、おおいに驚きました。たとえ額面が違うとはいえ、私の売った株は 800 円。4 桁の差

は一体どこにあるのでしょうか……と、ここまで書いて何月何日と判った方もおられることでしょう。ダメ押しに申しますと、明後日国鉄の分割民営化に伴う大幅なダイヤ改正が行われます。

……と前置きが長くなってしまいました。そろそろ本題に入らねばと思いつつ、この半年を振り返ってみます。毎度のことですが、原稿の催促には苦勞しました。2, 3 の新企画が原稿未着の為につぶれ、当初予定していた会報倍増計画は夢の彼方へと去って行きました。その中で誕生したクロスワード、苦肉の策でありました。批判は覚悟しております。兎に角、研究室のできごとに限らない文章を載せるという目的の自由投稿が僅か 1 年でつぶれなくて本当に良かった、としみじみ思っております。（S）

会計報告

1986.10.7現在

60年繰越金	854,629
■収入の部	
会費	268,500
利息	3,604
計	272,104
■支出の部	
稲化会報(第4号)	32,000
消耗品代	4,280
通信費	38,080
雑費	7,750
計	82,110
■残金	1,044,623
	(単位・円)

お願い

- OBの方々の消息等の御連絡をお願いします。また、自由投稿(フィクション・随筆あるいは川柳などでも結構です)や新企画等も募集しています。下記宛までお寄せ下さい。

〒160 新宿区大久保3-4-1
早大理工学部 化学科事務室気付

- 稲化会費を払いましょう。
正会員 1,500円、学生会員 750円
なお終身会費は30,000円です。
払って安心、終身会費……

稲化会役員

会長	関根吉郎	伊藤紘一
副会長	高宮信夫	関根吉郎
監事	井口馨	高宮信夫
評議員	井口馨	新田信
	伊藤礼吉	高宮信夫
	高橋博彰	新田信
	多田愈	新田信
	松本和子	新田信
	長瀬裕	矢野圭一
	中山匡	小又昭彦
	井上国見	宮田信夫
	百瀬浩	小林慶裕
	宮野浩行	
常任委員	会計 新田信	
	庶務 伊藤紘一	
学生幹事	M2 伊藤信一	関敦司
	M1 玉置真希子	塚田光男
	B4 遠藤茂	境野佳樹
	B3 小西隆太郎	湯沢哲郎
	B2 朝倉徹也	古瀬礼子
	長谷川健	
	B1 泉千英子	植田佳代子
	神崎昌之	

